



災害が起きたら



東日本大震災の
応急給水の様子

市内の
約半数が断水
となり、
給水所では水
を受け
るためにたくさ
んの人
が並びました。



村上 昭浩様撮影



もしも大地震が起ったら、水道はどうなるんだろう？



水道局では、地震でも壊れない浄水場や水道管づくりを進めているよ。でも、大きな災害が起きた時には、断水になることも考えられるんだ。その時のために、災害時給水栓や給水車などを用意しているんだよ。



わたしたちにも何かできることはないかな？



災害時給水栓

防災備蓄倉庫にあるホースと蛇口をつなげば、地域の方々だけで簡単に給水所を開設することができます。東日本大震災の教訓から市内の指定避難所195箇所(市立小・中学校、市立高等学校など)に整備をすすめています。

学校

自分たちで
給水
できるね！



住宅地



公園

お風呂に水を
ためておけば
よかったな...

人の命に
かわる場所に
急ごう！

病院

水がないと
治療ができない！

給水車

病院や避難所となる学校などに給水車で水を届けます。給水車は、ほかの都市から応援に来てもらうこともあります。

重いものが持
てないんだけど。
水をどうやって
運ぼうか...

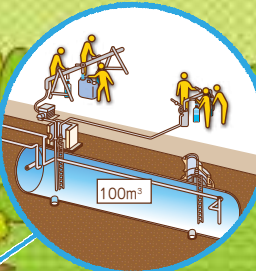
お水運びま
しょうか？



地域の助け合い

非常用飲料水 貯水槽

学校や公園などの地下に約10,000人分の水を貯めることができるタンク(水槽)を設置しています。災害がおきたときには、ポンプで水を吸い上げてみなさんに飲み水を配ります。



大きな災害に備えて、
「水の備蓄」を
しよう！



1日に必要な水は1人3リットル！

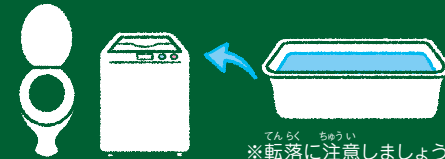
人が1日に必要とする水分は、およそ3リットルといわれています。地震などの災害に備えて、1週間分を備蓄しましょう！



3リットル
×人数×1週間分

生活用水(トイレなど)も必要です

飲み水だけでなく、トイレや洗たくのための水も必要です。お風呂の水はすぐに流さず、くみ置きしておきましょう。



※転落に注意しましょう。

ふたが閉まる容器を用意しましょう

給水を受けるとき、鍋やバケツに運ぼうとすると水がこぼれてしまいます。ペットボトルやポリタンクなど、ふたつきの容器を用意しましょう。リュックサックやキャスター付きのバッグに入れば楽に持ち帰ることができます。

